

第12期 社会教育委員の会議（第3回） 会議録

- 開催日時 令和元年8月9日（金） 午後2時～4時
- 会 場 立石地区センター第一会議室
- 出席者

大島 英樹	野川 春夫
大畑 廣行	竹高 京子
長峰 政子	鈴木 弥生

事務局職員 4人

葛飾区教育委員会事務局参事, 生涯学習課長	加納 清幸
生涯学習課学び交流事業推進係長	伊藤 清美
生涯学習課学び交流事業推進係主査（社会教育主事）	与儀 睦美
生涯学習課学び交流事業推進係	畠山 実咲

オブザーバー 2人

生涯スポーツ課長	南部 剛
生涯スポーツ課事業係長	張替 武雄
	出席者 計13人

次第

- 1 報告事項
 - (1) 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会（大畑委員）
 - (2) その他
- 2 議事
 - (1) 「SDGsとオリンピック、私たちにできることとは？」（大島議長）
 - (2) 検討項目と課題の整理
 - (3) 今後の会議日程
 - (4) その他

【配付資料】

- 第1回会議会議録（確定版）
- 第2回会議会議録（案）
- 葛飾区基本構想・基本計画策定検討委員会関係資料【資料1】
- 「SDGsとオリンピック、私たちにできることとは？」【資料2】
- 第12期社会教育委員の会議スケジュール（案）【資料3】
- 関連事業チラシ（ボランティア・NPO入門講座、初心者体験講習会：琴、ストレッチ、子ども安全を考えるつどい、視覚障害者教養講座、数学・算数検定体験、水元わくわくまつり、つるし雛、遊び上手な親、傾聴ボランティア、子ども・子育てフェスタ）

— 開会 —

○事務局 第3回葛飾区社会教育委員の会議を始めます。

風澤委員、熊谷委員、事務局では生涯学習課長が公務のため欠席します。

本日は傍聴者がいらっしゃいます。傍聴者にはここで入場いただきます。

(傍聴者入場)

○事務局 本日の資料の説明をいたします。

資料1は、大畑委員からの提供で、葛飾区基本構想・基本計画策定検討委員会関係の資料です。

資料2は、大島議長からの提供で、本日のレジュメです。

資料3は、スケジュールの案です。

その他、第1回の会議録の確定版、第2回の会議録の案を机上配付いたしました。第1回の会議録は、葛飾区社会教育委員の会議のページに既に掲載いたしました。修正、ご指摘ありがとうございます。また、第2回の会議録の案についてですが、修正、ご指摘等ありましたら、8月23日までにご連絡ください。ご連絡がない場合、修正がなかったと判断させていただきます。

それでは、この後の進行は大島議長にお願いいたします。

1 報告事項

(1) 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会

○大島議長 皆さんこんにちは。早速ですが、次第に沿って会議を進めてまいります。

1の報告事項ですが2つあります。1つ目、葛飾区基本構想・基本計画策定委員会です。前回の会議で大畑委員を推薦しました。早速、第1回目があったとのことですので、資料1に基づいて報告をお願いいたします。

○大畑委員 7月31日に第1回の葛飾区基本構想・基本計画策定委員会の全体会合が開催されました。初めての会議ということで、区長から各委員に委嘱状を一人ずつ手渡してもらいました。今回、45名の方が参加していましたので、委員の自己紹介で、長い時間がかかりました。

議題の中の基本構想・基本計画策定委員会の概要説明ですが、資料の3枚目以降に本委員会の概要、要綱が入っています。基本構想は、昭和54年7月にできて、その10年後、平成2年に再検討ということで基本構想並びに基本計画の流れがずっと来ていました。再検討から30年たって新しい視点で見直した基本構想と基本計画を策定していただきたいということでの会議でした。

また、会議を進めるに当たって、会長・副会長は互選ということでしたが、事務局から中林委員が会長、河合委員を副会長とする案が提出され、案のとおり決定いたしました。

この委員会は、第1から第4分科会に分かれています。第4分科会につきましては、各分科会が開かれた後、必要であればその代表者が参加するというので、誰がと決まっております。

まず会議の公開等につきましては、こちらの会議と同じ内容で承認されています。

要綱の別表に各分科会の検討分野が記載されており、役割が決まっています。

基本構想議事の2番目にある基本構想にかかわる検討の方向性についてというところで、6枚目以降に、方向性についてという趣旨の文書と、それから案が書かれています。これはまた検討していきますが、非常にわかりにくい部分があります。

また、2回目からは分科会で検討していくということですが、基本構想だけは全体会で決めないと方向が変わってしまうのでは、という懸念があります。分科会の中でそれぞれの思いで基本構想の発想、発案をした場合に、どうやって他の分科会に分けていくか、これから非常に問題になるのかなと思っています。第1回目は、顔合わせの会で、事務局の説明がほとんどで、検討事項としてまだ検討されていません。2回目以降、基本構想などの内容が出てくればまた皆様方にお知らせするという形になるかと思えます。今の段階ではこちらの資料で全てです。よろしくお願いいたします。

○大島議長 ありがとうございます。

スケジュールを見ると10回の会議があり大変とは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。では、皆様からいかがでしょうか、ご質問等がありましたら。

私からいいですか。2回目の会議は分科会とのことですが、全体で方向性を共有する時間がないまま分科会を開催するのでしょうか。

○大畑委員 はい。委員長から事務局に対して意見がありましたが、このまま分科会に行きそうです。だから分科会3回の後に全体会というスケジュールは変わるかもしれません。余りにも分科会で議論が限界になったときに、事務局だけでまとめられない可能性もあります。その場合はまた予定が変わるのかなという感じがしています。そこまで行ったらまたお示しいたします。

○大島議長 この社会教育委員の会議の進行への自戒を込めてということで、今日少しでも方向性をお示しできればなと思っています。ありがとうございます。

では、他にいかがでしょうか、ご質問等、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○大島議長 ありがとうございます。では、大畑委員ありがとうございました。

(2) その他

○大島議長 それでは、報告事項の2です。第2回の会議でもご案内いただいた「未来の図書館を考えるシンポジウム」について、登壇されていた竹高委員からご報告をいただければと思います。

○竹高委員 前期2年間のテーマを大きくまとめて、糸賀前社会教育委員に前半戦お話をさせていただきました。これからの葛飾区図書館について、まだまだたくさん課題も社会教育委員の会議の中で話し合っなくて、さらにやはり区民が区民のための図書館を自分たちで考えてつくっていくという方向が必要だということをお話させていただきました。

申し込みが50人でしたが、荒天模様だったので、もっと少なくなってしまうのではと心配しまし

たが、たくさん来場していただいて、有意義な時間だったと思います。

○大島議長 ありがとうございます。他にもおいでになった方がいらっしゃるかと思いますので。

○大畑委員 図書館の方向性を示すような読み物、写真説明があり、図書館でこういうおもしろいやり方があるのだな、自分で探しに行かなくても、そこに行ったときにそういうテーマがあって、そこを読むと自分の好きな場所を見ていけるのですね。こういうテーマの持ち方を図書館がしてくれると行きやすくなるのかなと、非常におもしろかったです。

○野川副議長 私からは「未来の」という言葉がついていたので、近未来の図書館をどのように位置づけてどのような使い方をするのかということをもうちょっと拝聴したかったな、というのが気持ちです。でも、会場になった図書館が非常に立派で、こういう図書館をこういう形で運営していくと区民にとって非常に有意義なものになるのではないかと考えながら帰りました。

○大島議長 私も参加いたしました。スライドを講演のはじめに見せていただきましたが、図書館の多様性というのに非常にびっくりして、ああ、こんなのが近所にあつたら気持ちいいだろうな、と思いました。葛飾は、そういう意味ではオーソドックスな図書館でしたけど、足立区に住んでいたときによく葛飾の図書館に勉強に来ていました。やはりコンセプトが違えば、誰にとって居心地がいい場所かが違いますよね。受験勉強がしやすかったのは葛飾だったので、区をまたいでこちらの勉強室を使っていたなと思うと、本当にターゲットをきちんと考えて、何がしたいのかということとを形にできるということが図書館というもののおもしろさだなとすごく強く感じたところです。本当にいい機会をありがとうございました。

○竹高委員 今のお話を受けて、隣の荒川区にはすごくいい図書館がありますよね。保育室や、勉強するところもあり、電源が使える場所とか、会話ができる場所もありました。しかし、社会教育委員の会議で、葛飾区にとってどうしていくのがいいのかを追及したところ、オーソドックスな図書館がいいのではないかと。社会福祉施設とか、そういうものも一緒になっているところが多いですが、方向性としては単館が望ましいだろうというところに落ち着きました。図書館は物すごく努力をなさっていて、何を読みたいかわからない人のために、3冊ぐらい新聞紙で作った袋に入れて、中身がわからないようにして渡すといった工夫もされていて、今とても有意義な場所になっているなということを思います。

○大島議長 ありがとうございます。事務局の皆さんからは。

○事務局 前期の第11期の社会教育委員の皆さん方が大変ご努力されてまとめたものを、冊子だけではなくてシンポジウムという見える形で発表をしていただきました。教育行政のほうも図書館と共にそれを生かすようにしていきたいという思いです。私も一時足立に住んでいましたが、比較すると、葛飾の図書館は以前からレベルが高かったという印象があります。ただ、最近は建物等が古くなって、いろいろ区民の方からも苦情が来ている部分もあると職員からも聞きましたので、これからの図書館ということで葛飾区の教育行政の中でも発展性があるところではないかなと思います。12期の委員さんも、引き続き図書館のことにも関心を持っていただければありがたいと思います。

○野川副議長 大学の図書館も今どんどん変わっています。これまでは静かに勉強する場所、本を読む場所だったというところから、「ラーニング・コモンズ」という言い方にして、学習できる場と

ということでグループの学習ができたり、話ができたり、ゆっくりできたりします。それはハーバード大学とかスタンフォード大学などのまねをしているのですが、やはり本離れをどう克服するかとか、コミュニケーションがなかなかできない者同士が集まって、同じテーマでコミュニケーションできるような場の設定と情報がすぐとれるように工夫をしています。お茶の水大学も非常に魅力的に変わりつつあります。そういうのを見ていますと、やはり大学の図書館と地域の図書館の差別化みたいなものも含めながら、どういう方向に行くのかな、というところをもうちょっと知りたかったです。

○大島議長 ありがとうございます。話が重なっていくと心配も出てきて、社会教育委員の会議で、もちろん図書館も社会教育の大事な内容ですが、葛飾の場合は社会教育館という建物があったわけですが今は無く、図書館は社会教育館ではないという中で、葛飾では建物を持っていない。生涯学習課ですら部屋を借りて使っているというような状態で、学びの場づくりがやりにくくなっているのではないかと、という思いにもつながっていくのかなとも考えます。

○竹高委員 前期でも、社会教育館がなくなったことによって、その役割が図書館に行くことで、図書館に負担がかかっているかもしれないという話がありました。ただ、場所がなくなったわけではなくて、名称が変わっても、やはり生涯学習課に頑張ってくださいと言うので、また生涯学習課の負担も増えてはいると思います。ただ、形は変わりつつあるけれども、居場所としては図書館で一部分やって、別の場所で一部分やってということが生まれてという形が、ある時期で変わっていくだろうと思います。「未来の」図書館は、大学のようにコミュニケーションがとれるような形の図書館にそのうちに移行していくとは思いますが、まだ今ではないだろうなど。最新の図書館を見ていると、社会教育として見て、その手法でできるけれども、葛飾区では違いうだろうというのが、またときとともに変わっていくものではないだろうかと思いました。

2 議事

(1) 「SDG s とオリンピック、私たちにできることとは？」

(2) 検討項目と課題の整理

○大島議長 ありがとうございます。皆さんよろしいでしょうか。

それでは、1の報告事項を以上にしたしまして、2番目の議事に入りたいと思います。

では、議事(1)「SDG s とオリンピック、私たちにできることとは？」という題でお話させていただきたいと思います。

お手元にスライドのコピーを配付いたしましたが、スライドを一緒にご覧いただいて、たくさんご意見をいただければなと思います。

今日のお話の構成としては、「SDG s とオリンピック、私たちにできることとは？」というタイトルで、その「SDG s とは」という話からまずしたいと思います。その上で2番目、「東京 2020 大会とSDG s」、これはとても語られていることなので、そのお話です。そして3番目の「私たちにできることとは？」というのは、次第は項目別にしていただいている(2)番の「検討項目と課題

の整理」というところにもつなげてお話ができればなと考えています。

一つ目、SDG s を全然聞いたことがないという方はいらっしゃいますか。はい、ありがとうございます。それがとても大事で、何で余り耳にすることもないのに、話す必要性があるのだろうかというあたりを、まず今日は一緒に共有できたらなと思います。

SDG s というものが出てくる前にMDG s というのがありますが、こっちは聞いたことがあるという方はいらっしゃいますか。こちらは更に少ないと思います。

次のページが概要です。MDG s というのは何かと言いますと、Millennium Development Goals、ミレニアム開発目標の略称で、国連で多くの国でこういう目標を立てて努力しましょうと決めたものの略称です。期間としては2001年から2015年。20年ぐらい前に非常に大騒ぎしまして、わけはわからないけどミレニアムとつけたらば物が売れるとか、ウインドウズも95、98と来てミレニアムエディションというのをわざわざつくったぐらいの大騒ぎでした。国連もその騒ぎに乗じて目標をうたった。しかし、皆さんご存じなかったように、内容は後でやりますが、八つの貧困撲滅目標というようなことで、発展途上国中心の目標だったので、日本ではほとんど注目されませんでした。一つ目、とてつもない貧困と飢えをなくそう。二つ目、みんなが小学校に通えるようにしよう。三つ目、ジェンダーの平等を進めて女性の地位を高格する。四つ目、子どもの死亡等を削減。五つ目、女性が健康な状態で妊娠し子どもを産めるようにしよう。六つ目、HIV・AIDS、マラリアその他の病気が広がるのを防ぐ。七つ目、環境の持続可能性を確保する。そして八つ目が秀逸ですけど、世界の一員として先進国も責任を果たす、なんですよ。ほとんどの問いについては、今風な言葉だとスルーされてしまうような目標が多かったのですが、現在でも、とてつもない貧困、国連全体で見たらばそういう国がたくさんあり、この課題はこの20年間の間に日本でも非常に課題になっています。

初等教育の普及率がどうかという話も、ようやく数年前になって基礎教育というものを保障しようということがより広がって、夜間中学校の増設につながる、子どもの死亡率、ユニセフが統計を出していますが、5歳未満児死亡率というような数字がありまして、「放っておけない世界の貧しさ」というキャンペーンがあったことはご存じですか。2002、3年ごろに、ホワイトファームドキャンペーンというのがあって、1、2、3と指パッチンをする広告、何で指パッチンかという、3秒に一人世界の子どもが亡くなっていますというコマーシャルで、非常に注目されました。最も死亡率が高かった国は、当時1,000分率で示しましたが、1,000人のうち5歳未満で亡くなる子どもの割合はどれくらいだと思いますか、2000年代初頭。

○野川副議長 難しいですね。

○大島議長 ざっくり。

○生涯スポーツ課長 半分ぐらいでしょうか。ソマリアとか、ルワンダとか。

○大島議長 2003年のときの1位だと思いますけど、シエラレオネが270いくらかという数字が出ています。4分の1ということです。では、当時の日本というのは、どれくらいいるか。

○野川副議長 すごく少ないですか。

○大島議長 すごく少ないです。

1桁でした。6だったかと思います。それが現在一番新しい数字が去年、一昨年ぐらいにアンゴラに1位が変わっていて、200は切っている、すみません、きちんとした数字を持ってきてなくて、日本は3という値になっている。そういうことがみんなに詰まっていたんですが、なかなか注目はされなかった。でも、ただこの部分、環境の話というのは日本も問題として早目に進んでいたの、この中の一つという形ではないけれど注目されていたということがあります。

そこで、先ほどの概説とあわせて、E S Dというのが同じ時期に進んでいたということをお伝えしたいと思います。E S Dというのは何かというと、Education Sustainable Development、持続可能な開発のための教育、さっき環境の持続可能性という7番目の目標と重なります。その期間が2005年から2014年、国連は何かかんとかの10年というふうにキャンペーン期間を区切って集中的にそれに取り組もうとしますが、これの10年というのがあったのをどこかで耳にされていたか。終わっちゃっています、既に。というぐらい、なかなかやっていることが伝わりません。

その内容は何かというと、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育ということで、これは日本がイニシアティブをとって国連に働きかけて、こういうE S Dというのを進めましょうよと言いました。それはなぜかということ、日本の歴史にもかかわっていて、もともと公害の問題が非常に激しくなっていて、それに取り組む教育というのは学校教育、社会教育等がたくさん展開をされました。小中学校の先生方も公害問題に対する教育に取り組んで、それがだんだん地球環境問題というものとも重ねられていって、90年代に地球サミット、92年ですね。そのあたりで環境教育という言葉とリンクするようになります。その環境教育の延長にこういう話が出てきている。

なぜ環境だけじゃなくなったのかというのがさっきの図です。環境学習だけではもう持続可能ということを考えるに当たってもおさまりに切らなくなっているという話です。先ほどの概要をご覧いただいて、2005年からということで行くと、この辺に防災とか入っていますが、東日本大震災のことを想定していたわけではないわけですよ。でもその前から大きな地震、ほかの自然災害とかも含めて防災だとか、エネルギーだって今だったら原子力防災とか、ぱっと浮かぶでしょうが、それには限らずあった。これが環境学習とかかわるようなものもありますが、後ほど出てきます文化の話とリンクするような国際理解、それから世界遺産や地域の文化というようなことも持続可能性というところにはつながります。この辺のイメージは湧きますでしょうか。世界遺産とか地域の文化を見る、かかわる学習が持続可能性の学習になる、と。

皆さん、そうですね、方言をたっぷりお持ちの方、気づいたら何年か後になくなっちゃうかもというふうに考えるとわかりやすいですが、言葉はその人のアイデンティティでもあって、同じ言葉を話す人とまとまって国もできていたり地域もあつたりするわけですが、そういう言語とともにアイデンティティを持つ人たちが消えていく。そういうようなことも含めて先住民の人たちのアイデンティティというようなことですね。非常に注目をされて、そういうことを考えたときに今の私が特別な希少な立ち位置にいたとしても、その自分もずっと生きていける。その自分たちの持った文化も続いていく。そういう続いていくという観点から見たときに、持続可能性というところで一緒にくられる。環境教育というような言葉じゃおさまらなくなりました。

その基本的な考え方としては、これEはEducationのEなので、教育的な価値で知識、価値観、

行動ということが前提になって、しかし、非常に議論にもなるところですが、環境、経済、社会の統合的な発展、これを持続させていくという、いろいろとこの先の話の議論にもなります。

そして、表題だったSDGsというものにたどり着きます。実は今日お手元の資料を一生懸命カラーにしてみたのは、この彩りとこのパネルというのは一度見ていただくと、これからそこから目に入りますよということです。今までのさっきのMDGsとESDというのは聞いた人には大切だったけれど、余り結局びんとこなかった。でも今回の場合は今ピンと来ているかどうかは別として、いろんなところで語られているし語らざるを得ない状態になっている人たちもあると。それをこれから見ていきたいなと思います。

これも先に概要のほうから見ますけど、こういう略称です。Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標、さっきのESDと同じSDです。持続可能な開発というものは何なのか。それを実現していくためのいろいろな目標が17出てくるのですが、前の前にお話ししたMDGsの後釜なので、2015年に前のキャンペーンが終わっているので今度は2016年から30年このキャンペーンは続きます。オリンピックが2020年、来年に区切りが来てしまいますが、それよりも射程は長いキャンペーンになっております。

ここの部分もいろんな訳がありましたけれど、今回お示ししているのは「世界中の人々を誰も置き去りにしない」のキャッチフレーズにはいろいろな訳があって、「誰一人置き去りにしない」とか、もっと短い訳になっているものもあります。このフレーズもどこかで繰り返し皆さんこれからお聞きになることになるかなと思いますので、「誰も」ということは、皆さんが例外になってはいけません。必ず何かやる時に自分も例外にならない、自分も入る。この話というのが非常に大事なかなと思っています。なので、日本とのかかわりとしても、さっきのMDGsと違って、先進国を含めた全ての国と人を対象とした目標だよという話になっています。

さっきESDで出てきたものがもう一回ここに出てきています。持続可能な開発の三つの側面というところ、持続可能な開発は、将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発と定義づける。ここに出てきているのはさっきの経済と社会と環境というのがまた出てくるよという、三つを調和させることが不可欠だというのが目標としてさっきのMDGsの八つに比べるとややこしくなっている部分です。

これを別の捉え方として五つのPとか言っていますが、こういうのをいっぱい挙げても切りがないので、今は話をはしりたいと思います。この辺も宣伝なのでサミットの写真や、ここからは写真は抜きにしても、こっちは大事にしたいと思います。SDGsは普遍的なものだ、「誰一人置き去りにしない」というところから、これからの目標はいろいろ言うけれど、自分が例外になってしまったらそれは果たせてないではないかという考え方です。それから、不可分なものがある。17もいろいろあると抜けていたっていいではないかではなくて、どれもつなげて実現しなくてははいけない。そして変革的というのは、今の形だけでだめならば変えていかなきゃいけないという考えです。

目標1、あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ。これはMDGsの考え方です。

目標2、飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。

目標 3、あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。

目標 4、すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
直接的には教育という言葉が出てくるのはこの目標の 4 に当たります。それ以外のところも見ていきたいと思います。

目標 5、ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。

目標 6、すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。今、皆さん水道の蛇口からお水が飲めなくなった方ってありますか。僕は平気ですが、いつの間にか習慣化して、水道の蛇口のお水はもう嫌だなという方はお水を買うようになりましたが、もともと買って暮らされている土地もあるとか、いろんな課題を考えることができると思います。

目標 7、すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。自前の電気を持ってらっしゃる方ももう既にあるかと思います。

目標 8、すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する。何かこの辺で経済などが出てきて、今までとちょっとトーンが違ってきている部分です。でも、訳語も訳がし切れなくて片仮名がいっぱい残っています。「ディーセント」真っ当なとか、適正なという言い方でいいと思います。真っ当な仕事、適正な仕事を推進する。日本はちゃんとやらなきゃいけないという状態だと思います。

目標 9、レジリエントとかレジリエンスと言いますが、復元力があるとか、弾力性があるとか、つらいことにも耐えて何とかやっていけるとかというそんな意味ですね。だからプレッシャー、困るような圧力がかかっても何とかはね返せるよという、そういう力を持ったことを言います。レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図ると。だんだん何の話なのかわからなくなってくると思いますが、ただ、こういう目標が並んでいるということをご認識いただければと思います。

目標 10、国内および国家間の不平等を是正する。これなんかは現代の日本社会において非常に考えなきゃいけないことです。さっきまで見ていただいていた SDG s の目標、実はお手元の資料だと違っていることにお気づきでしょうか。これは途中でデザインが変わったようで、資料 2 のお話の途中になっていたところの図はダイヤ型になっていますが、それが新しいもので、この丸というのはちょっとわかりにくいということで、デザイン変更というものが起きています。

目標 11、都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。これはまさに暮らすというようなことで討議の一つにはなるかと思います。

目標 12、持続可能な消費と生産のパターンを確保する。

目標 13、気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。気候変動、こう暑いと実感があるかもしれません。

目標 14、海洋の海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する。

目標 15、陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。どこまで連れていかれるのだと思うかもしれません。

目標 16、持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築すると。平和と公正をすべての人に、こういう目標もあります。

最後、目標 17、持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

こんな目標が並んでいて、よくも並べたものだというのが見ていただけたかと思います。こういうものを国連広報局として、キャンペーンという言葉は僕も先に使いましたけれど、広めていきます、広げていこうよということが書かれています。この辺をどう考えたらいいでしょうか。三つ目の黒ポチですけど、SDGアイコンやプレスリリースを含め、包括的な広報資料を6つの国連公用語すべてで作成しますと言われて、すごいだろうと言われていますが、日本語は国連の公用語ではありませんので、日本は努力をしない限り日常的に情報が伝わる状態にはありません。それが私たちに馴染みがないという理由です。日本語に訳すというひと手間、そしてその訳語をどう採用するかひと手間があって、こういうことへ簡単につながれないという状況があります。なので、英語でここに出ているよ、ほかの言葉でも出ているよと幾ら宣伝されても、すぐには役立て得ないというようなところがあります。繰り返しになりますが、全ての公用語でと言われてもそうですかと終わりがちだということで、広報局としては日本でもSDG sを広めようと言っていますが、皆さんに感じていただいたとおりの現状にあります。

このようなSDG sというものが、今、進められようとしていまして、これを東京 2020 にリンクさせる、と。これ 2020 大会組織委員会のホームページに載っているものです。さまざまな課題がくっついていて、東京 2020 大会の持続可能性コンセプトとして「より良い未来へ、ともに進もう」としてオリンピックと気候変動とか、資源回帰とか、さっき出てきたような水、緑、生物多様性とか、人権、労働、公正な事業慣行、そして参加・協働、情報発信、こういう話と結びつけてオリンピックをやろうということですね。

見えにくいと思いますが、組織委員会のホームページにこういうのがありますよ、ということalmazはご承知いただければなと思います。それぞれの立場の人たちがそれぞれの機会にかかわっていく例として、「みんなのメダルプロジェクト」皆さんも携帯電話を寄附された方もあります、回収ボックスに。誰かのメダルになるという話もあります。参画プログラムを全国で実施という言葉が出ていて、直接的に一人の住民としてかかわれると書いてあるけれど、公共交通機関を利用するか、かなり周辺的なところになってしまうのかなというふうに思います。でも、その上で、では組織委員会としてはどう言っているのか。

「オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界最大規模のスポーツイベントであり、その影響は環境・社会・経済に、また開催国のみならず世界にまで広く及ぶことから、持続可能性に配慮した大会の準備・運営が求められます。」さっきの環境・社会・経済が出てきて、ここで大会の準備・運営というところにつながっています。

「国連においては 2015 年に『持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』が採択され、『持続可能な開発目標 (SDG s)』が設定されました。この 2030 アジェンダにおいても、スポーツは持続可

能な開発における重要な役割を担うとされています。」と、ここにつながってきます。

「日本は、気候変動や天然資源の枯渇、差別等の人権問題等、持続可能性に関する世界共通の課題に直面しています。

東京 2020 大会は『Be better together／より良い未来へ、ともに進もう』をコンセプトとし、持続可能な社会の実現に向け、課題解決のモデルを国内外に示していきます。

また、地球及び人間の未来を見据え国連の『持続可能な開発目標（SDG s）』に貢献するとともに、将来の大会や国内外に広く継承されるよう取り組んでいきます。」と。ここが最後の要求ですね。SDG s に貢献するという形でオリンピックをやるよ。それから将来の大会に継承されるような取り組みをするよ。この言葉また次の話で出てきます。

東京都では、オリンピック・パラリンピック教育を推進するという事になっています。

「東京都では、オリンピック・パラリンピック競技大会の究極の目標『平和でより良い世界の構築に貢献する』、教育基本法及び学校教育法における教育の目標の一つ『伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う』、2つの目標に高い親和性があると捉え、以下のポイントに沿って取組を展開」

東京都のオリンピック・パラリンピック教育のポイントは、一つ目、新たな取り組みを始めるのではなく、日々の様々な教育活動に関連付けていく。

二つ目、知識の習得だけではなく、体験や活動を通じて学びを深めていく。

そして三つ目、各学校の特色ある教育活動を家庭や地域を巻き込む取り組みに発展させ、レガシーとして残していく。継承ということですね。このオリンピックでこのごろさん言っている言葉になります。

で、この三つをもとにしてオリンピック・パラリンピック教育をやっていく。『『ボランティアマインド』、『障害者理解』、『スポーツ志向』、『日本人としての自覚と誇り』、『豊かな国際感覚』の5つの資質を育むとともに、共生・共助社会の実現を目指しています。」というふうに結んでいます。

ポイントとしては三つの視点と五つの資質を目標にしているようです。この辺が都の言っているオリパラ教育の方向性なので、この辺とのかかわりで、この委員会はどういう事例を見、どこに向かっていくのかというのを考えることができるだろうと思っています。

その上で、さらに参考になりそうなものがその続きになります。2の3、レガシーの創出に向けた文部科学省の考えと取り組みというのをご紹介したいと思います。

文部科学省は次のようなことを言っています。「文部科学省としての目標を以下のとおりとする。

いずれの目標も、課題解決先進国日本として、日本が誇る各領域の『強み・深み』を再発見し、2020年の『締切り効果』を最大限活用して、ショーケースとして世界にアピールする・発信するチャンスと捉え、その結果が『次の世代への贈りもの』として受け継がれることを大目標とする。」

文科省はかなり正直にというか包み隠さず表現していますよね。オリンピック・パラリンピックということ東京都は随分一生懸命位置づけというか目標を語りましたが、文科省はストレート

ですよね。課題解決先進国といっているのを発見し、2020年の締め切り効果を最大限に活用する。締め切りを切ったらそこまでやるぞというところに重みをつけているわけです。さらに言えば、ショーケースとしてアピール。いっぱい人が来てくれるし、やるから注目してくれよと言っています。そういうチャンスとして捉えるよと言っています。かなり露骨な言い方だなと思いますが、その結果を次の世代への贈り物として受け継がれるようにしようと言っているのです。この文科省の言い方と都のオリパラ教育の考え方、何を受け取るのかも検討できたらいいではないかと思います。

その大目標に続けて複数の柱が建てられているので、それも確認しておきたいと思います。

1番、スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる「スポーツ立国」を実現する。このようなものがされている。ご報告でもお送りしたところと重なると思います。

2番、我が国の多様な文化の十分な理解を促進し、文化資源の積極的な活用を図る(カルチャー)。この辺は文化プログラムという話にもなりますし、もっと言えば今、四ツ木駅を売り出し中の葛飾の現状とも重なるので、いろんなふうに引きつけて考えるということも必要だと思います。

3番、我が国の科学研究の蓄積や科学技術の発展・成果を国内外へ発信するとともに、最新の科学技術の社会実装・実証を加速する(イノベーション)と。

4番、若者が地域、社会やグローバルの課題解決に自ら考え行動する活動を促進・支援する(ヒューマン)。この辺は学校教育が担っていけるところでしょうし、もう既にオリパラ教育というところでは、今日、先生方がいらっしやなくて残念ですけど、もうアワードという形で年度ごとにそういう教育として実際によくやっているねというような実践を表彰する、顕彰するという形で推進を始めています。

5番、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、活躍できるコミュニティを実現する(ユニバーサル)。この辺がやっぱり直接的に社会教育的な課題とも言えるかと思います。これはスライドがありませんが、お手元の文部科学省として取り組む企画一覧というものに、今、五つ挙げたキーワードごとの柱に沿ったさまざまな施策の名称や方向性がずらずらと挙げられているという形になっています。これはもう読み上げませんが、既にこの葛飾でもかかわりのあるものも、参考になるものもあるだろうと思いますので、あわせてお持ちいたしました。

ここまでの初めの流れの1、2というところでしたが、最後に、大きな3、私たちにできることとはということで、提案といいますか、こうしたいというふうに思います。

次第の議事の(2)というところにも関連させてお話ができればと思います。3の1です。社会教育委員メンバーの強みを生かすということで、今期の委員会の課題というものが非常に幅広くてつかみどころの難しかったところを、どこを根拠に考えていったらいいかなというときに、東京都のオリパラ教育のポイントに則してみると、委員の皆さんのこれまでのご経験がうまく位置づくのではないかと考えて、お名前とそのポイントを重ねてみました。

まず一つ目の、日々の教育活動へ関連付けるというのは、新しいことをしなくてもいいよと都も

言っていました。であれば、今まで取り組んでいる教育活動をよく振り返って、関連づけるという言い方は、実はE S D、あれも新しいことをやるということ以上に、やってきたことの中から価値あるものを見出そうということを非常に大事にしています。そういう考え方とも重なっていきますので、取り組んできたこと、いいもの、宝になるものを見つけ出すということから行きますと、学校、校長先生方からご自身の学校だけでなく区内のいろんな取り組みについてご紹介いただけたらいいのではと考えます。

二つ目、体験や活動を通じて学びを深めるという部分では、長峰委員、鈴木委員、直接的にもやられていることやさまざまな連絡会議に通じて得られた事例というようなことをご紹介いただくところから始めたらどうかと考えます。

三つ目の家庭や地域を巻き込み、レガシーにしていこうでは、地域につながりをお持ちの大畑委員や竹高委員の取り組みをお聞きするというようなところから始めていったらいいのではと考えてみたわけですが、これから一緒に相談ができればなと思います。

さらに最後のスライドになりますが、もう一步踏み込んでみると、スケジュールがあつたらいいかなど、勝手な案を立ててみました。実際に都合とお気持ちで入れかえもしたらいいと思います。区や都の取り組みを知るというパートと、それから委員の皆さんの実際の取り組みから学ぶという。そしてさらには、今日もSDG sというところでは会社の話やもっと広くという話がありました。企業や他区の事例に学び、次年度に提言という形を考えていくということでしたので、そういう話に入っていくとことのできるだろうと考えました。

これはあくまでもたたき台です。委員の皆さんからお声を、ご自身のお声を聞けないままずっと行くのはもどかしいなという思いもありますが、もう一つ区や都のやっていることというのも共通知識として持ちたいという思いがどっちつかずにいたので、まずはこう出してみました。

長い話におつき合いただきまして、ありがとうございます。皆さんからのご意見、そして最後の部分に関してはそれに重ねてご提案いただければと思います。

本当にとっつきにくい報告だったと思いますが、報告についての質問であったり感想であったりから始めて今後への提案というようなところにもつなげて話ができればと思いますが、いかがでしょうか。どこからでも。

○竹高委員 「葛飾区の中でのSDG s」という形のをまとめていこうというイメージです。東京 2020 を踏まえた研修というのは大き過ぎて、とらえどころがないように思います。例えばこの課題で勉強していったところで、私たちの葛飾区の中でそういう形でこういう方向で動いていけたら、という意見をまとめるということは、今ご説明いただいたばかりなのでイメージしやすいですけど。もう少しスポーツであったり 2020、また、ボランティア活動を踏まえたところで、そういうものの全部を何項目かを形にまとめていくというイメージでいいでしょうか。

○大島議長 ありがとうございます。初めに、あまり具体的に固まり過ぎたものを出すのはどうか

と思い、外側に広がっている枠組みをご紹介した上で、総科的な提言をしてもしょうがないだろうなと思って、どこかを選んでいくなり外していくなりということも含めて、一番広げたときはこんなことが示されているということをもまず共有したいなと思ったのが今日の話でした。

それで、どれかに則していくか、SDGsでも前面に出す必要もないかと思いますが、葛飾はこういう思いでいて、このオリンピック、オリンピック以降を見据えて取り組みをするというときに、根拠にはなるだろうと、言葉というのはこれからも議論していく中で見つかっていくものを使ったほうがいいんじゃないかなと思っています。頭ごなしの言葉をポンと置くと簡単ではあろうと思いますが、余り魅力的ではないなという気がします。

○野川副議長 竹高委員は去年も委員をされているので、どういう構成にしたらいいのか想像できますでしょうか。具体的に。

○竹高委員 そうですね。具体的にというか、私は全然学識もないので、結局文章にするとどうなるかは、きちんとできる方にまとめていただくほうがいいと思います。やはり何を取り込んでいくのかが、すごく難しいと思います。その中で大事なものは何か、というものを残していく。2年間という任期ですが、実質1年間だけなので、凝縮してやっていかないとすごくテーマが大きいだけに厳しいなと思います。前期は図書館という形のあるものを扱いましたが、今回は形が全くないので、どこにポイントを当てるかがぶれてしまうと、いろんなところに発散してしまっていて厳しいと思います。大事な話なので、狭めてはいけませんが、最初の部分はどういう方向かというようなお話ができたほうがイメージしやすいと思います。前回の野川副議長の話と今日のお話と、同じものですが違うものというのを聞いたところで、イメージとしてはそういう形なのかなと何となく自分の中では思い浮かべてきました。皆さんはいかがですか。

○鈴木委員 このSDGsという言葉は聞いたことがありませんでした。先月ぐらいですかね、大手の建設会社の方たちとのパーティーがあったときに、皆さんがこのカラフルなのをつけていて初めて見たので、それは会社のですか？と聞きました。会社ではありませんが、何だかわかんないけど配られてつけていますと、どなたも説明をしてくださりませんでした。うちの会社なんかも全然そういう話も出ていませんでわからずで、葛飾区としてもサポートする話はあるのでしょうか。

○生涯スポーツ課長 区としてもSDGsには取り組まなくてはならないという通知は来ています。

一方で、皆さんと同じで、私も含めて職員も、SDGsとはなんぞや？という状態なので、されていないというのが正直な話ですね。SDGsの通知があって自分で調べても見ましたが、同じようなホームページがあって、ただ何か広範囲にわたっている部分があって、ではそういう中で自分の施策の中でどういうことができるのか、どういうつながりがあるのか、というのがまだそこまで考えられていないというのが正直なところです。

○事務局 この項目の平和、人権、男女平等などは、そういった部署もありますし、環境を所管する部署もあります。しかし、例えば、大島議長、野川副議長、竹高委員、大畑委員が出席されてい

た教育計画を策定する会議では「SDG sを念頭に置いて」のような言葉はありませんでした。大分前の社会教育委員の会議では、関心がある委員さんがいらして、発言では出ていたことがありましたが、まだなじみがないということでしょうか。

○大畑委員 自分が思っただけだけ発言いたします。東京2020のレジェンドを社会教育委員が考えていきたいと思いますという話になったときに、東京オリンピックのイメージがオリンピックの競技的なもの、技術的なものに続くイメージしかなくて、教育委員会の前に、何を残すのだろうか。どのような形で残すのか見当が付きませんでした。だから前回の話もそうでしたし、今回聞いて、競技も確かに一番表に出るものですが、ここに至るまでの東京都なり国が考えた開催の意図というものを考えると、その意図に葛飾をどの程度乗せるか、どういうイメージでどれだけ残してくるか。いくつもある中で身近なところでこういったものは皆これを契機により理解できたねというのを広げていく。そういう考え方で見ていけるでしょうか。

○大島議長 そうだったら非常にいいと思います。キャンペーンという要素が強いものですから、手を挙げると得するということがあります。ESD sは典型的でしたが、乗りませんかと言って、はいと言うと注目してくれて、場合によってはお金もくれて、やったことを広報してくれてとかとあって、うまく使えと。だからいろんなふうに展開する。

だけど、個人的な反論ですが、そういう単純に手軽なことをしていいのかという思いもある。だから、どうやってチャンスを使いましょうか、あるいはいいだろうって見せたいだけではなくて、ちゃんと自分たちでやれたなと思うのを見つけたから、それは伝えたいという思いに変えていくとか、そのあたりをしっかりと議論しながら進められれば、手続的に順番はもう大畑委員がおっしゃったとおり、こういうふうに頭ごなしに枠組みとか示されたけど、やっぱりそれを丁寧に自分たちでやっていることと照らしていきながら、きちんと伝えられるものを表現したいというのはあります。

合意をとりながらうまく利用したら、というのは、この間も野川副議長がおっしゃった意見と重なるのではと思います。ただ、単純に飛びつくのは違うだろうと思います。

○野川副議長 別の言い方からすると、SDG sという言葉でいろいろな部署でいろいろなものが集約されつつあるような気がします。3年前だったらレガシーという言葉が流行しました。東京オリ・パラの招致が決まって、じゃあ今度何をしようかといったときに、できればいろいろな建造物を使って経済の活性化とかいろいろなことをやろうよと言っていました。しかし、その後の利用をどうする、負のレガシーを出さないようにするためにはと、レガシーという言葉でいろいろな業界が走りました。しかし、3年たちますと、レガシーという言葉にみんな聞き飽きて、その後にSDG sが入ってきたと言ったほうが多分本当のことだと思う。

それで、基本的にはレガシーも「持続可能な開発」という意味で、いい施設を残して、上手に使われてということで、本質的には変わらないはずですが、キャンペーンということになってくると、

やはり3年たつと色あせます。色あせると新しい言葉に変わってくるということだと思います。

SDGs と言ったほうが、オリンピックのレガシーという狭い意味ではなくて、いろいろな分野でも長く使えるような言葉だと思います。それで、10年計画とか15年計画という形で、できるだけ数値目標を立ててそれに向かって責任をとるという。行政のやることは責任をとる、ということが始まっていますので、アドバルーンを上げて、はい、おしまい、ではなくて、数値目標的なものを出して、それに向かって優先順位をつけていったほうがいいですよというところまで踏み込めれば、我々もそういうことしても無責任にならないと思います。

でも、核になるものは区民、健康、安心・安全で、それをスポーツというものを通してどの程度、普遍性、いろんな方々にそれを広められるかという。誰も取り残さないという No one left behind があると思いますが、そういうものを上手に入れながらやっていくことになる。

25年前にグローバル、グローバルと言われて、その後、グローバルだけでいいのか、グローバルの反対はローカルですから、それでグローバルという言葉が少しはやったことを覚えていらっしゃるでしょうか。「考えるのはグローバル、行動はローカル」というような言い方がありました。

だから、ある見方をすると、また歴史的な流れと同じような流れですが、キャッチコピーというようなことかなと思いますね。

○鈴木委員 こんなにたくさんあるのは、皆さんの理想ですよ。しかし多分、何一つ完璧にできないものだと思います。では戦争する国はやめてもらいたいとか、そういうのが手っ取り早いと思います。これで葛飾区に持ってくるということがイメージできなくなっています。

○野川副議長 スポーツ基本法もそうですが、基本的には国は方向性だけ示す。あとは自治体側でそれをどれとどれが必要かを考えて、自治体に合ったものをつくりなさい。ある意味では少し無責任かもしれませんが、でも国はそういう方向ですよ。それで、必要なものにしか予算はつけない、新しい施設はもうほとんどつくらないと言っていました。でも安倍総理大臣が1年半ぐらい前に急にいわゆる稼げるスタジアムやアリーナを日本中で20か所新設すると言いました。体育館だったら5,000人以上入るような、Bリーグができる、コンサートができる、スポーツをする空間だけではなくていわゆる複合施設ですよ。20か所は国がつくると言いました。良い、悪いは別として、そんなのもあり、東京都も多分やはり似たようなことで、東京都としてはこういう方向に行きたいと。でも、区は後で自分たちの区に合ったものを考えてやれということだと思います。

だから全部包括していなくてもよくて、葛飾区にとって喫緊の課題や何かをどんどん挙げて行って、それに合わせたものからやるというのが多分現実的だろうと思います。

○鈴木委員 オリンピックと絡ませるとなると、じゃあオリンピックに出るようなすばらしい子どもたちを育てようみたいなことを考えたときに、施設がなくて、例えばアイススケートでは、場所がないので1カ所に固まる、待ちがすごく出ている、習いたい場所はない、というのがあって、やはり新設するべきだなと思いましたが、区はそういうのがつくれるのかなって。

○生涯スポーツ課長 宿泊とかそっちはまだ厳しいのですが、これまでもいろいろ話がある中で、葛飾区が建てたとしても、そこまで需要があるのか。継続してそれこそレガシーになって持続可能なホテル運営ができるかというような議論も、多分会社ではあると思います。

そういった中、クライミング施設を建てています。ただ、オリンピックでそうやって建物の競技だけではなくて、外国からの観光客が、競技会場だけではなくて、せっかくだから柴又に行ってみましょうとか葛飾のいろんなどころに行ってみましょうといったときに、おもてなしボランティア、外国人向けのサイン、案内ができないかなど。外国人への案内ができるということは、例えばピクトグラムでやった場合には、日本人にもわかりやすいサインができる。外国人にもわかりやすい、誰にでもわかりやすいサインを作るというのは、これはオリンピックを契機として、その後もずっと残っていくのではないかと。当然、「おもてなし」については、その後もさまざまところに根づくものでしょうし、外国人にこうやって接することで多文化の共生に対する知識もできてくるのかなと思います。

そういうふうにトータルで見えていく。オリンピックがあることによって何が発生するのか。そのいいところを残していきましょうというのが、枠組みというか、どんなのがというのを拾い集めていって、こういうことが起きてきたら今後は残していくべきじゃないかというような形になってくるのかなとも思いながら、話を整理としてみました。

○長峰委員 「おもてなし」で言えば、フラワータワーが区内各所にありますよね。それから花壇も地区センターの屋上などでたくさんつくられています。だからまちがすごくきれいになっている。それからバスに乗ると、4カ国語ぐらいの情報、表示がされます。バス停の。そんなところでも、もう始まっているのかなとは感じました。

○大島議長 そうすると、ちょうど最後のスライドにあります、前回、今回の話を加えつつ、区ではどう取り組んでいるのかという話を聞かせてもらうといいのかなという気がしてきました。

今、皆さんからも疑問点が生まれているところなので、スポーツをどう捉えてくるかという話といろんな理想的な問いかけを踏まえて、区はどう踏まえていますか、踏まえていませんか、ということも盛り込んだようなご紹介をいただくと、いろいろ聞けるのではと思います。僕は話し過ぎましたけど、コンパクトな定義でもいいかと思います。それでそこでいろんな意見交換ができると、より具体的にはこんなことをやっています、ということその先で委員の皆さんからご紹介いただいて、そうするとまさにやっていることを拾い出していくということにもつながっていくかなと思います。

○大畑委員 新たにつくるのではなく、今やっている内容のものから拾い上げてくるということ。

○大島議長 そうですね。都も、新しいことばかりではなくて、ということを強調しています。でも、当然そういうものを拾い上げてくれば、バージョンアップ、どこかでしかやっていないことをまねするというのはとても広がることにつながっていくので、そういう効果もあるのかなと。

○竹高委員 都と区が今、2020に向けて動いていることを知りたいなと思いました。プラス、SDGsに向けて、都と区は、今、区はそういう通知は来てはいるが、というお話だったじゃないですか。このお話が動くものがあるのかどうか。なおかつ都の中でそういうものに向けて動くものがあるのかないのか。その2方向からのお話を聞けると少しずつ雰囲気がわかるのではと思います。

○生涯スポーツ課長 SDGsに関して言えば、生涯スポーツ課としてこれにどうかかわりができるかというつながりが見出せなかったところですが、区としては先ほどお話した環境課、人権推進、健康、福祉、関連してくることが当然あると思います。そういう捉え方でもいいとは思いますが、ではどこまでそういう各種団体のニーズを…。

○竹高委員 そうですよ。膨大な情報量になるかもしれないですよ。でも、その情報は多分、私たちが知っていたりするものももちろんあると思います。大まかに今の時点ではこういう形で動いているというのを把握していくことが今は大事ではないですかね。

私たちの宿題だと思いますが、葛飾区の中、都内のいろんなところで2020に向けての動きがこんなに変わっているということも拾ってきてもよいと思います。区内で今、おっしゃったように花壇の整理、南北国道の植木がされているなど、気付いたことを次回挙げてよいかなと思います。

○長峰委員 練習の招致をしていると伺いましたが、そういうのは決定していますか。

○生涯スポーツ課長 まだ決定しているようには思いません。

○長峰委員 水元体育館のプールを改築するときに、50メートルとるとの話が最初は出ていたかと思います。それがなくなってしまったので、練習にも使えない、ということもあるではないですか。やはり負の遺産のことを考えて、小さく規模をしたということなのでしょうか。

○大畑委員 当時、私たちも立ち会っていました。2階の体育館なども含めて物すごく経費がかかってしまう、それが第一にありました。言いわけとして機械類を置くとスペースがないということでしたが、実際それはどうにでもなりました。しかし、50メートルプールを競技できるような大きさでつくると、上の体育館を支える梁がない。そういうところをどう造るか。非常に工費がかかり過ぎる。それで最低限25メートルの短水の機械をちゃんととってくれるということで、そうになりました。

○竹高委員 50メートルで屋根があるだけという形なら別ですが、やっぱり総合スポーツセンターとして考えると、50メートルをつくるのは厳しいですね。

○大畑委員 今、技術がいいので、できる方法はあるらしいですが、非常に費用がかかります。

○大島議長 本当に事実として知らなければいけない情報や、そういう基準のようにいろんなレベルで僕らもわからないといけないこともあると思います。だから理想的な項目出しもありますが、いろんなルールがあって、その中でできていること、あるいはやったらいいなと思うことを出し合ったらいかがでしょうか。そんな発題を9月にしていただけますか。じゃあ生涯スポーツ課さんから。

○生涯スポーツ課長 生涯スポーツ課ではスポーツを通じた取組みをしています。

○竹高委員 それ以外は。

○大島議長 関連するところを。

○事務局 9月に、オリンピック・パラリンピック担当課には来ていただくか、こちらが聞き取
かしたいと思います。

○大島議長 課とか係とか事務局とかという名前でやっているのですか。

○事務局 はい。ただ、実質的な事業は生涯スポーツ課がやっています。

○生涯スポーツ課長 スポーツという意味ではうちが取り組んでいますが、例えば先ほどの長峰委
員からお話がありましたフラワーメリーゴーランド、あれもオリンピックの会場とかで飾っていき
ましょうということでやっており、そうしたスポーツ以外の取りまとめはオリンピック・パラリン
ピック担当課がやっています。

○事務局 そうすると両方の話が聞けると、SDG sの話に届くかどうかはわかりませんが、オリ
ンピック・パラリンピックの区取組みは9月にまとめられれば、良いですね。

○大島議長 少し時間があるので、どれだけ決めていただくかは別として、一応オーダーとしては
SDG sも意識してご報告くださいと言ってみたいと思います。僕らも僕らなりに勉強してお
いたら問いかけるるので、意識しないまま報告いただければ、勿体ないと思います。

○事務局 わかりました。それで、ご相談ですが、一度近いうちにスポーツの施設でこの会議を開
催できないかと考えています。奥戸の総合スポーツセンターや水元総合スポーツセンターで、いか
がでしょうか。

○生涯スポーツ課 視察も兼ねてですか。

○事務局 はい。見学に時間を少し取られますが。できれば、9月か10月に、新しい施設の水元総
合スポーツセンターに行けたらと思います。

○生涯スポーツ課長 はい。

○大島議長 9月は生涯スポーツ課さんをメインとしながらオリパラ担当のお話も聞ける。施設見
学については、9月にできるかもしれませんが、10月も候補日として。

○大島議長 10月は、区の別の課のお話、都というお話もあったので、候補となり得る話題提供者
を少し挙げていただけますか。

○事務局 生涯学習課でも幾つか、博物館も含めて取り組んでいます。

○大島議長 10月は、関連課あるいは都も含めて9月に続いての話題提供でよろしいですか。

○野川副議長 都はオリパラ事務局のほうがいいでしょう。大きく残ってやっているのです、その中
のどこがいいかというのをちょっとおっしゃっていただければ聞きたいと思います。

○大島議長 その上で委員さんからのお話も続けて聞ければなと思います。

ありがとうございました。前向きな意見交換ができて、とてもうれしく思います。

議事の（１）、（２）については以上としたいと思いますが、（３）に進んでよろしいでしょうか。

（３）今後の会議日程

今後のスケジュールは次のとおり決定した。

ア 9月27日午後2時から、水元総合スポーツセンターで第4回会議を開催する。

イ 10月25日午後2時から、本庁舎で第5回会議を開催する。

（４）その他

○大島議長 では、その他議事、いかがでしょうか。ご自身の活動のご紹介、チラシ類とかで何か説明が必要なものはありますか。よろしいですか。

○野川副議長 1点よろしいですか。

○大島議長 はい、お願いします。

○野川副議長 東京都の部局のひとつにオープンデータを扱う部署があります。そこでアイデアソンキャラバンというのを3年前からやっています。東京都とか各市町村とか国が持っているデータを使って、それで新しいものを何かつくってみようという会議です。特別区、支部、八丈島や小笠原などの島嶼部で各1回開催され、今年も9月にあります。各区から集まって、ブレインストーミングなどをやりながら、新しいアイデアを出しあいます。たまたま去年、テーマがスポーツで私も講師で出席しました。今年は、多様な魅力を持つ東京の観光を考える。サブテーマとしては観光客がまだ知らないすぐれた魅力を発信するためにはどうしたらいいか、訪れる誰もが安心・快適に滞在できるまちにするためにはどうするか、特別区ではどんなアイデアができそうかということで、例えばスマートフォンアプリにしてそれを売り出すこととかということまでやっていきます。大学生から社会人とか企業人、80人ぐらい集まりますので、葛飾区からも出られたらいかがでしょうかとデータを持ってきました。

スポーツ、健康などいろいろなものを絡めて、インバウンドと言われる外国の人たちが安心・安全で、少なくとも1泊だけでなく2泊、3泊してお金を落としていってもらうために、どんなアプリを開発すると彼らが来やすいのかという狙いも半分あるようです。

なかなかおもしろいイベントなので、できれば葛飾区の職員も参加されて、それを今度こちらにフィードバックしていただけたらと思います。

○大島議長 ありがとうございます。アイデアソンというのは何かソンといって何かマラソンの略ですね。アイデアソンというのはアイデアをいっぱい出し合いましょうという意味で、小さい集まりでもそういう形をとって自分の中では生まれてこないアイデアもたくさんその場で相乗

効果が生まれることもあります。この技法は学習の場でも役に立つことなので、そういう経験としてもどなたかが行かれる、あるいはまずはあるのを見るというのもとても大事だなと思います。

○野川副議長 2年前、オストメイトはご存じですか。人工肛門の方々がトイレを探すのはとても大変でした。それで、オストメイトのトイレの位置をアプリにして、QRコードで示すアプリケーションをツイッターで宣伝するなどしています。他にも昨年は大学生が、子どもたちの遊べる公園、区内にいろんな公園がありますが、その公園にどんな施設と用具があつて、何かあつたときにはどこにいればいいのかという情報付きの地図をつくりました。なかなかおもしろいので、公共スポーツ施設、運動できるところとか、示せるものがあれば、皆がいつも利用できないと言っているのが解消できる。そういうシステムを考えさせてもいいかなというのも一つです。葛飾から何人かが参加して、皆でいろいろ話をしながらどんなアプリがいいか、企業も巻き込んでちょっと一緒にやらないというのもあるかと思います。

○大島議長 ありがとうございます。いろんな情報共有をすると…。

○野川副議長 アイデアが損にならない。

○大島議長 自治体の壁というものが思いのほかありますね。隣の区ではこんなアプリがあることを知るだけでも、どんどん欲しいものもふえたりするかなと思います。その他項目ということもやっていければなと思います。議事につきましては以上です。

お疲れ様でした。

— 閉会 —